

1 - 2 北海道弟子屈町付近の浅発地震 (1988)

Shallow Earthquakes near Teshikaga, Hokkaido (1988)

北海道大学 理学部

Faculty of Science, Hokkaido University

弟子屈・阿寒付近は1938年屈斜路地震(M6.1)をはじめとして、M6クラスの直下型地震が起こることで知られている(第1図)。1968年以後、M6クラスの地震は起こっていないが、1988年になって局地的有感地震が弟子屈町内で比較的多く発生している。第2図に最近12年間の地震を弟子屈側と阿寒側に分けてその頻度分布を示した。

第3図は北海道大学理学部地震予知観測地域センターで決めた地震の震央を示したもので、1988年の地震は大別して川湯付近のグループ(A)とコタン付近のもの(B)とに分けられる。これらの地震の時系列(第1表)を見ると、必ずしもグループ度に1時期に発生しているわけではないことが分かる。

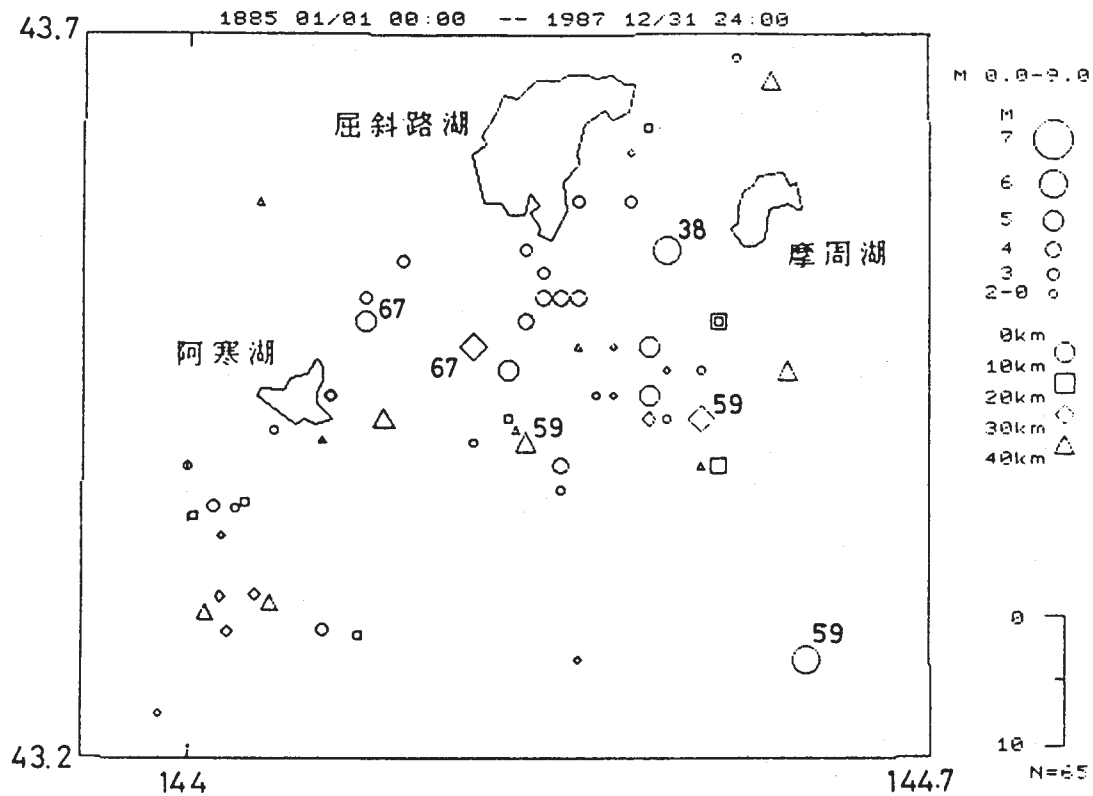
光波測量の結果では、弟子屈地域の地殻が少しづつではあるが依然収縮をつづけていること(笠原稔, 私信), 1988年1月に雌阿寒岳が小噴火を起こしたことから推定すると、弟子屈・阿寒地域の地殻活動が最近活発な状態にあることを示している。

(鈴木貞臣)

第 1 表 1988 年に第 3 図の領域に発生した地震の表

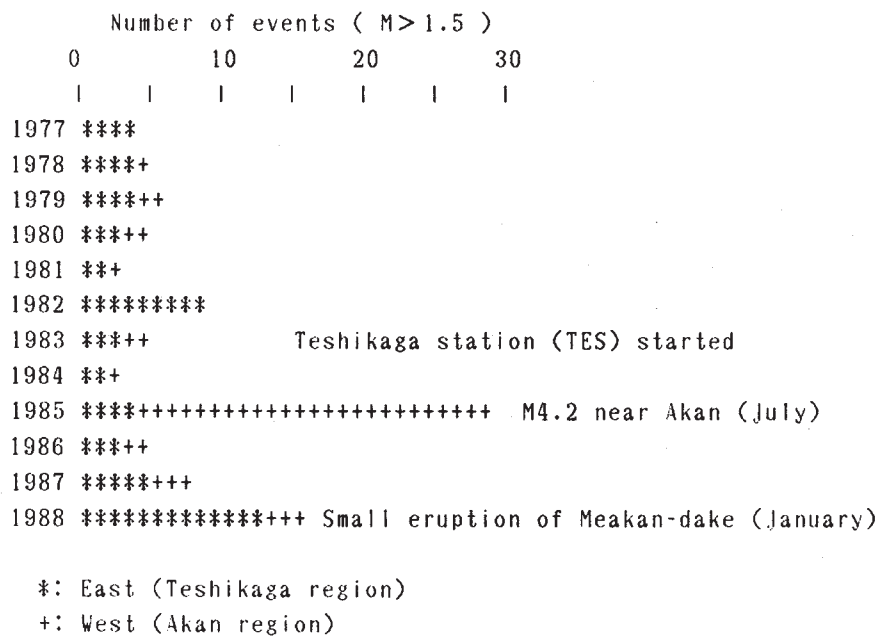
Table 1 List of earthquakes in 1988, occurring in Teshikoga - Akan region (Fig. 3)

No.	Month	Day	Hour	Min.	Mag.	Region
1	2	1	22	27	2.8	A
2	3	17	20	37	2.0	B
3	3	19	14	27	3.3	B
4	3	20	1	5	2.0	B
5	3	20	13	51	3.3	B
6	5	29	3	40	3.1	C
7	6	24	2	46	2.1	A
8	6	24	2	51	2.8	A
9	8	3	10	11	3.3	A
10	8	14	6	44	3.9	B
11	8	21	9	26	3.4	A
12	9	13	12	30	2.0	B
13	12	1	17	16	3.5	A



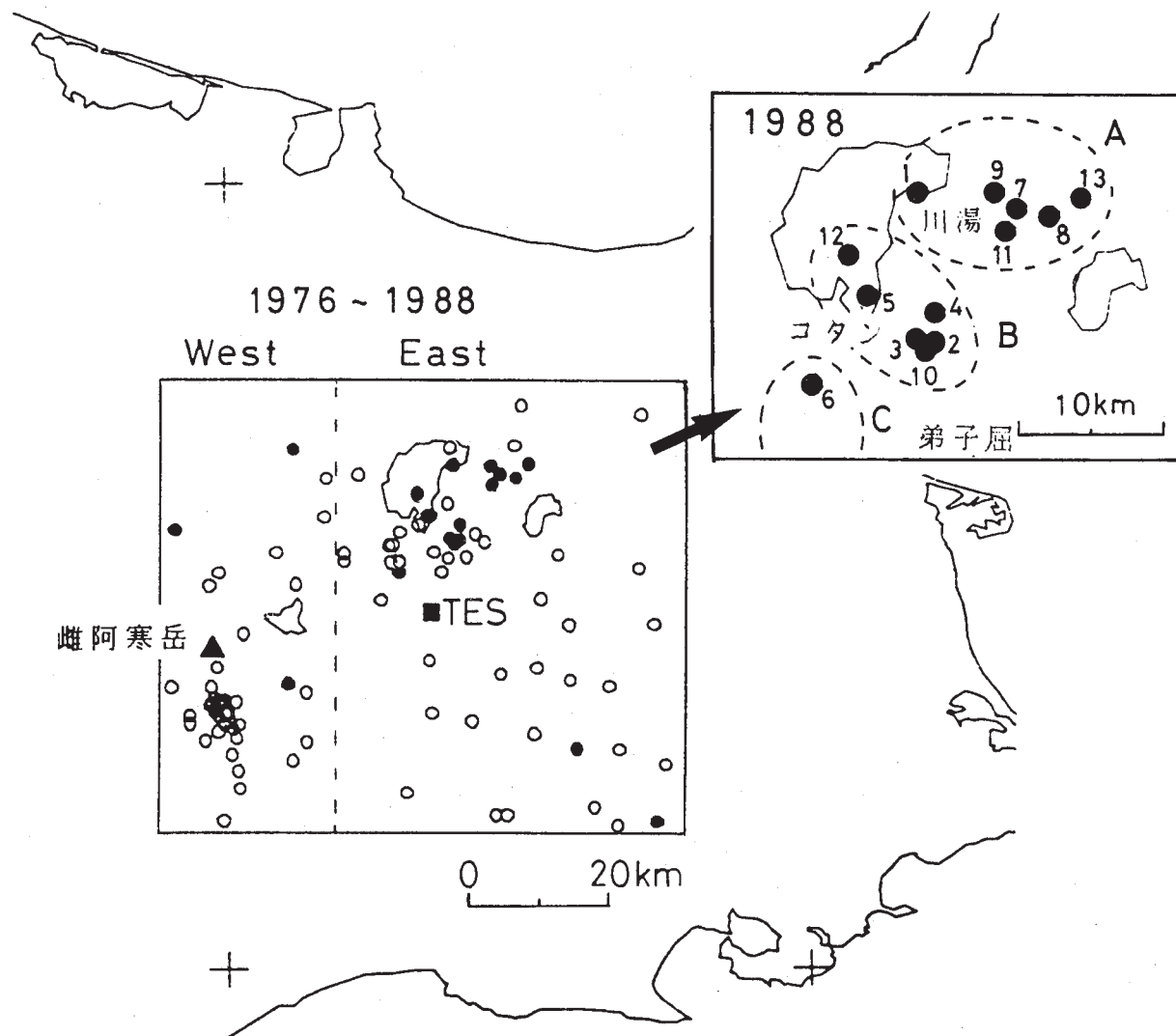
第1図 過去に発生した浅い地震の震央分布 $M \geq 5.5$ の地震には発生の西暦年 (1900 を引いた) を付けた (気象庁資料による)。

Fig. 1 Epicenter map of shallow earthquakes (after JMA).



第2図 北海道大学理学部地震予知観測地域センターが観測した小地震の年間回数

Fig. 2 Yearly number of earthquakes observed by Hokkaido University.



第3図 小地震の震央分布 黒丸は1988年に発生したもの。地震につけた数字は第1表の地震番号に対応する。

Fig. 3 Epicenter map of small earthquakes. Solid circles indicate events of 1988. Earthquake number attached to epicenter corresponds to that in Table 1.